
卵から棺桶まで（詩集）【2】

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

卵から棺桶まで（詩集）【2】

【Nコード】

N7896Q

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

詩集です。『卵から棺桶まで』の続編として、これからの詩を載せていきます。

私の生み出すいろいろな詩（唄）をよろしくお願い致します。

愛の必要性（前書き）

どれだけ愛を敬遠しても、愛は人と共にある。

愛の必要性

人は愛がないと生きていけない

人は他人の愛を求めて生きている

親の愛の中にすぎり

友との愛を認め合い

恋人と愛を育てあい

夫婦で愛を確かめる

愛をなくして人は語れない

人の心は愛を求めている

どれだけ愛を跳ね退けようが

どれだけ愛を打ち返そうが

愛は人の中枢に存在する

愛は人の中心に存在する

どれだけ独りを好んでも

どれだけ人を敬遠しようが

心の中には愛が必要になる

心の中では愛を求めている

愛し愛され

愛され愛し

人は人として

成長していく

愛を心の糧として

愛の必要性（後書き）

皆様の愛は何処に注がれていますか？

皆様の愛は何処から注がれていますか？

言葉の使い方（前書き）

あなたは優しく話せていますか？

言葉の使い方

夜風は冷たく人の温もりをも奪っていく

北風は冷たく人の温かみをも奪い去っていく

人は必要に応じ 時に冷たく人の心を傷付ける

人が人を

人が物を

人が動物を

慈しむのは

温かな心があるから

優しい温かさがあるから

強き者は 弱き者を

見えない刃で傷付ける

強き者は 弱き者を

言葉の刃で傷付ける

人は 人間は 言葉を持つ

それは 決して 人を蹴落とす為のモノではない

それは 人と人が

それは 人と物が

それは 人と動物とが

それは 生物であるが故の誇りとして

人間が 温かさを差し伸べる 手段である筈だ

人間が 癒やしを差し出す 手段である筈だ

今 世界は狂っている

言葉は 夜風よりも冷たく

言葉は 北風よりも痛々しく

言葉は 人間の凶器と化している

言葉は 優しく 使おう

人の為に

言葉の使い方（後書き）

人を罵倒するような、人を足蹴にするような、そんな言葉はどれだけ丁寧に話しても、凶器以外の何物でもない。

生物の中で言葉を凶器とするのは、人間ぐらいじゃないかと思えます。

まだ、その時ではない（前書き）

社会で疲弊した精神をまだ癒やしている途中

まだ、その時ではない

私は今

光輝く闇の世界を徘徊している

私は今

眩しく光る暗黒の世界を徘徊している

私は今

まばゆいばかりの漆黒の世界を徘徊している

肉体は

世界の中で

光を浴びて

草木が光合成をするかの如く

水面がキラキラと輝くが如く

雨後に虹が煌めくが如く

呼吸を続けているが

心は 精神は

闇の世界をただ闇雲に徘徊し

暗黒の霧の中で放浪し

漆黒の塊の中に閉じ込められている

此処に残るは我が能力
此処から出るのも我が能力

今私は

殻の中から

世界を傍観している

いつか

羽ばたける

時を待ちながら

まだ、その時ではない（後書き）

タイミングを見極めて飛び立たねば、また墜落するかもしれないから。

『無』（前書き）

諦める事。そこから始まる事もある。

『無』

この世界の中で
最も尊いもの

この世界の中で
一番初めに経験するもの

この世界の中で
必ず最後に経験するもの

この世界の中で
当然のように纏わりつくもの

それは 無

何も無いという事

あらゆる物が存在しないという事

生命は 無 の中から生まれ出ず

生命は 無 の中へと帰還する

生命は 無 の中にて夢を見る

無　こそが摂理であり

無　こそが神秘であり

無　こそが最も尊いものである

足掻けど　もがけど

無は其処にいつでも存在する

人間よ

生命よ

苦しむ事なかれ

無から産まれた命は無へと帰す

無が絶対なれば

何に絶望すればよいのだろうか

『無』（後書き）

自分の心に言い聞かせるように詠んでみました。

これは私から私への手紙なのかもしれません。

この心、まだ癒えず（前書き）

誰に、何に、何を求めているのか……。

この心、まだ癒えず

『助けて下さい』

頭の中の言葉は誰にも聞こえない

『助けて下さい』

何度頭の中で唱えたところで何も変わらない

『助けて下さい』

口に出して言えたら楽なのかもしれないが

『助けて下さい』

決して口からそんな言葉は吐き出さない

『助けて下さい』

自分の存在自体を認める事が出来ず

『助けて下さい』

他者の心に住んでいないと不安になり

『助けて下さい』

私の精神は朽ち果てていく

『助けて下さい』

そんな言葉をただただ繰り返し

『助けて下さい』

苦しみからの解放を他人の心に委ねる

『助けて下さい』

もう流れる時間の中にその身を委ね

『助けて下さい』

時間という力に頼るしかなかった私は

『助けて下さい』

今心を棺桶にしまい込んだ

『助けて下さい』

涙が止まらない……

この心、まだ癒えず（後書き）

まだ、安定剤が無いと生きていけない。

人間でいる事（前書き）

難しく考えないで

人間でいる事

タバコの煙りが白い

私の吐く息も白い

これじゃ

煙りが白いのか

息が白いのか

分からない

冬の空気は冷たい

冬の風は冷たい

これじゃ

空気が冷たいのか

風が冷たいのか

分からない

人には分からない事が沢山ある

分からない事が沢山あるから探求する

探求するから発見する事も沢山ある

沢山発見するから

また分からない事が増える

『いちごっこ』で『堂々巡り』

そんな人間だけど

そんな人間なんだけど

人間でいる事に悪い気はしない

人間でいる事を悪いと思わない

人間でいる事（後書き）

不思議ですね。人間に生まれて苦しい事や悲しい事に幾度となく遭遇して、何度も投げ出したくなったけど、結局辿り着いた一つの答え。

生涯学習（前書き）

生きるという事は、山と谷の連続で

生涯学習

人生は

山あり谷ありで

その道が

険しければ険しい程

人は大きくなるんだよ

だって

そう思わないかい？

人生が

何事もなく過ぎ去って

何もかもが

順風満帆で

刺激も

苦難も

ない人生で

一体何を学べば

いいのだろうって

生きていく事

生きている事

生きるという事

全て苦難と試練の
連続なんだ

楽しい事や嬉しい事
笑いや喜びは
苦難と試練を
乗り越える為の
活力そのものなんだよ

人生

山あり谷ありで
いいじゃないか

生ある事

すなわち

日々勉強なんだ

誰かが言ってた

《生きてるだけで丸儲け》

生涯学習（後書き）

苦しい事もあるだろさ。悲しい事もあるだろさ。だけど僕等は挫けない。泣くのは嫌だ。笑っちゃお。（ひょうたん島より）

P e a c e (前書き)

世界の平和の為に

P e a c e

人は現在じだいを忘れてはならない

人は生命いのちを忘れてはならない

人は感情こころを忘れてはならない

地球ほしに住む全ての生き物たちは皆

神秘ちからの現象によって生きている

根源みなもとたる水を吸収し

摂理の下に弱肉強食を繰り返す

しかし

人は摂理を乱し

我欲ほしの為に地球を汚す

人は現在じだいを忘れてはならない

人は生命いのちを忘れてはならない

人は感情こころを忘れてはならない

さもないと

地球ほしは怪我けが付き

人は時間せかいを滅ぼす

邪鬼あくまとなるだろう

時間せかいは

人の為ために在るのではなく

時間せかいは

地球ほしの為ために在る

それを熟知じかくしなければならない

そして

宇宙を愛せ^よ

P e a c e (後書き)

人類は生命誕生以来の諸悪の根源なのかもしれません

時間の中（前書き）

支配的摂理

時間の中

どんなに急いでも

どんなに忙しくても

一日の長さは

24時間

どんなに慌ただしくても

どんなに退屈でも

一日の長さは

24時間

どんなにゆとりがあっても

どんなにゆとりがなくても

一日の長さは

24時間

何があっても

変わる事のない

何を変えても

変わる事のない

どれだけ祈っても

変わる事のない

普遍的で

絶対的な

時間の中で我々は生きている

そんな

時間の中で我々は生きていく

そんな

時間の中で我々は生かされ続ける

それが

時間に生きる生命の

使命

時間の中（後書き）

だからこそ、現在^{いま}を懸命に生きる必要があるのでしょうか……。

言の葉（前書き）

カタコト

言の葉

言葉

普段使つてゐる言葉

何気なく使つてゐる言葉

気にせず

着飾らず

素直な心を現して

他人と共感し

他人を傷付け

毎日

毎日使う

正しい

正しい使い方

言葉の正しい使い方

そんなものを

知らなくても

意味が通じ

心が通じ

気持ちに通じ

手を繋げる

手を離す事が

あるかもしれないけど

言葉

言葉の力で

言葉の能力で

また一歩進む

また一歩心が繋がる

難しく考えず

心のままに

相手に伝える

心のままに

相手を想う

その想いを

その心を

飾らない

素直な言葉に変えて

伝える

あなたに伝える

素朴で

味気ない

そんな言葉でも

伝わる

伝わる言葉は

きっと深い意味がある

そんな言葉を

そんな言葉を

皆 話しているんだ

ありがとう

そして

愛してる

そんな言葉

言の葉（後書き）

言葉は毎日話す。相手がいる限り、何気ない話をする。友人と家族と上司と教師と先輩と後輩と、いろんな人と話をする。それは全て、言葉があるから。言葉の力を借りて……。

罪（前書き）

罪の意識に苛まれ

罪

生きてる事が罪

そんな事を考える事がある

生きてるだけで罪

そんな事を思ってしまう事がある

生きるとは

罪の上に成り立ち

罪を重ねていくという事

生きるとは

傷の上に成り立ち

他者を傷付け続けるという事

そんな負の感情に支配され

そんな負の感性に支配され

生きているという事が

嫌になる事がある

生きていくという事が

嫌になる事がある

他者を傷付けるのは罪

自分を戒めるのも罪

モノを殺める事も罪

ならば……

食物連鎖そのものが

大いなる大罪なのではないだろうか……

そんな

悲しい

負の感情

罪（後書き）

人間は、はたして生きていて良い種族なのだろうか……。

未来へ（前書き）

人は矛盾している

未来へ

静寂を追い求め

喧騒に身を置く

安らぎを追い求め

人混みに身を置く

癒やしを追い求め

ストレス社会に身を投じる

どれだけ求めても

どれだけ欲しても

掴み取る事ができない

掴み取る事はできない

矛盾した感情と

矛盾した感性と

矛盾した行動と

矛盾した考えの中で

人は自分を見失っていく

人は自信を見失っていく

人は尊厳を見失い始める

今、人に必要な事は

今、人が必要な事は

繋がりを見付ける事

心を繋げる道に行く事

その先に

見えるモノは

人間の心が生きる未来

そ
う
願
い
た
い

未来へ（後書き）

病に悩む人も、人間関係に悩む人も、仕事に悩む人も、生活に悩む人も、皆が幸せになる世界を望みます。

メモリーズ（前書き）

悲しいなんて思わない

メモリーズ

録音する事も出来ず

録画する事も出来ず

記録に残す事も出来ず

複製する事もかなわない

そんな記憶を失いながら

そんな記憶を獲得しながら

僕等はみんな生きている

私達はみんな生きている

消えゆく記憶は

僕や私達に『さよなら』さえも言わないで

いつの間にか

頭の中から

心の中から

消えていく

記憶を失う度に

僕等は成長し

記憶が消えゆく度に

私達は旅の終着駅へと

進んでいく

消えた記憶も

僕の一部

失った記憶も

私の一部

そんな記憶も

今は遙か彼方

メモリーズ（後書き）

いつまでも、覚えておく事は出来ないから

好きな…（前書き）

心の支え

好きな…

好きな言葉は

『愛』と『夢』と『心』

今のテーマは

『死』と『生』

一文字の漢字の中に隠された

読み取り難い深い意味

探求する事で探すのか

探究する事で見付けるのか

それさえも分からないまま歩み続ける

幼き頃より変わる事のない

好きな言葉は

私の生きる礎

その本当の意味さえ知らずに

私がこの世に生誕して

もったテーマは

きつと読み解く事の出来ないもの

誰もが探求する久遠のテーマ

そして

好きな単語は

『希望』

望み希少と書いて

『希望』

薄く淡い想いでなくても

『希望』と書く

これもまた探求

好きな…（後書き）

皆様は、好きな言葉や好きな単語はありますか？

困った事になりました。(前書き)

店頭販売には気をつけましょう！

困った事になりました。

人間は卑怯だ

人の足元を見て

無理難題を押し付ける

金がない奴に

金を求め

私利私欲のために

言葉巧みに

人を騙す

今は忙しい

それなのに

人の事情も知らないで

勝手に話して

騙しにかかる

時間がない時に

現れて他人の邪魔をする

それがビジネスなのかも

知れないが

私はそれに伴い

甚大なる被害を受けた

携帯を変えました

もとい

携帯を変えさせられました

使い方も変わり

不明瞭な部分も多い

これは警告です

上手い言葉にや

裏がある

綺麗な花には

棘がある

どれだけ笑顔が素敵でも

人を簡単に信じては

いけません

ビジネスを生業とする

人間の心には

きっと悪魔が棲んでいるのです

困った事になりました。(後書き)

使い方がイマイチよくわからない(+|+)

人間は……（前書き）

慌ただしい毎日

人間は……

雨の日も

晴れの日も

曇りの日も

雪の日も

人は慌ただしく往来する

無風の日も

台風の日も

春一番が吹こうが

北風が強かろうが

人は俯いたまま往来する

空が広くて青い日は

野原に身を預けて

空に吸い込まれたい

雨が降る暗い日は

一人でぼんやり考えて

憂鬱な気分を吹き飛ばしたい

風が強くて億劫な日は

家の前で立ったまま

嫌な気持ちも飛ばして欲しい

人間は不便な生き物だ

絶えず考え

絶えず行動する

天気も気持ちも関係なく

たまには

ゆっくり休もうよ

生きているんだからさ

人間は……（後書き）

ゆっくり進んでも、人生に変化はあまりない。かもしれない……。

みんなが持つてゐる大事な魔法（前書き）

これは、smile Japanプロジェクトに投稿した作品です。

みんなが持つてゐる大事な魔法

疲れが吹き飛ぶ魔法のしぐさ

心を癒す魔法のしぐさ

苛立ちを鎮める魔法のしぐさ

精神の健康を考えた魔法のしぐさ

それは

ただ笑う事

『笑う門には福来たる』

そんな言葉があるように

ただ笑うだけ

ただ笑うだけで

人はその笑顔に救われる

人の笑顔は魔法の薬

人の笑顔は魔法のしぐさ

心を癒して

心を鎮める

魔法が集まる素敵なしぐさ

笑って

笑って

笑顔で

人と人が繋がりあつて

心と心が繋がりあつて

不思議な力が沸いて来る

素敵で神秘的な

魔法を誰もが持っている

それが笑顔

慈愛に満ちた

みんなが持つてゐる大事な魔法（後書き）

他人の笑顔は自分の笑顔。

自分の笑顔は他人の笑顔。

核（中枢）（前書き）

久しぶりの詩

核（中枢）

精神の病は

肉体を蝕む

精神の弱体は

肉体の衰弱を促す

精神の後退は

肉体の老化に繋がる

人は精神で活力を得

人は精神で肉体を向上させる

他人より精神力の強い者は

他人より行動力に優れている

世界の中心に位置するもの

世間の中心に位置するもの

生活の中心に位置するもの

それは全て

眼に映らぬ

精神力で構成されている

生命の精神力が

その構築を担っている

それが全てではない

そうかもしれないが

宇宙の構成と構築は

生命体の精神力の中にあるのかもしれない

均衡

光は心を癒す一つの指針

光は心を壊す一つの要素

闇は心を蝕む一つの根源

闇は心を許す一つの安息

世の中には光が溢れている

世の中には光が蔓延している

世の中は闇を排除していく

世の中は闇を隠していく

人の心に光と闇があるように

世界にも光と闇が存在する

人の核に光と闇が共存するように

世界の核にも光と闇があるべきだ

光の眷属が神であるように

闇の眷属が悪魔であるように

人が神と悪魔の模写であるように

光と闇には

バランスが大切だと感じる

今 世界には 光が広がりすぎている

今 世界に必要なもの

それは 最低限の闇

なんてな

均衡（後書き）

光と闇は表裏一体。

生歴

昨日があるから今日があるんじゃない

今日があるから昨日があつたんじゃない

生活の一日一日は毎日一話完結

毎日が新たな出発で

毎日が新鮮な生活の始まり

毎日毎日心機一転

毎日毎日暗中模索

昨日の自分にさよなら

今日の自分にこんにちは

明日の自分はどこにいる

そんな日々を繰り返し

人は成長を繰り返す

昨日があるから今日があるんじゃない

今日があるから昨日があつたんじゃない

けれども過去の自分は

今の自分の礎になっている

今日の自分は過去の自分の

ヒストリー

タコ公園

タコの遊具のタコ公園

タコの置いてるタコ公園

タコがあるからタコ公園

大人も子供もそうよんで

ホントの名前は違うのに

真っ赤なタコのタコ公園

タコの形の滑り台

ホントにタコかは知らないが

大人も子供もそうよんで

ホントの名前は違うのに

タコは子供の人気者

登って滑って滑って登る

タコの中身は空洞で

タコの中から滑って降りる

ホントにこれはタコなのか

子供はそうよぶタコ公園

大人もそうよぶタコ公園

みんながそうよぶタコ公園

いつしかそこはタコ公園

ホントの名前は違うのに

ある時タコがなくなった

タコは危険となくなった

タコから落ちて怪我をした

タコは大人に壊された

それでも呼び名はタコ公園

タコがなくてもタコ公園

大人も子供もそうよんで

タコもないのにタコ公園

いつまで経っても

タコ公園

一期一会

宛もなく歩いた

行き先があつた訳ではない

ただ歩いていた

生きる意味が分からず

生きる価値が分からず

生きる必要性が分からず

宛もなく歩いた

行き先があつた訳ではない

ただ歩いていた

死の意味が分からず

死の価値が分からず

死の必要性が分からず

そこで出会った

一人の男に出会った

彼はただの浮浪者だった

生きる意味が分からない

生きる価値が分からない

生きる必要性が分からない

その言葉に彼は

生きるという事を教えてくれた

また歩き始めた

帰る場所へと歩き始めた

道も分からなかったがひたすら歩いた

生きる意味も

生きる価値も

生きる必要性も

死ぬ意味も

死ぬ価値も

死ぬ必要性も

何もかも分からなかったが

涙が溢れて止まらなかった

生きていれば

生きていればこそ

そう教えられた

金も家もない浮浪者に

だからもう少し

生きてみようと思う

誰の為でもなく自分の為に

自問自答

火を見て想像する事

焼け崩れていく自分の姿

水を見て想像する事

溺死して漂う自分の姿

ビルを見て想像する事

飛び降りて落下する自分の姿

ロープを見て想像する事

首を吊り糞虫になった自分の姿

車を見て想像する事

はねられて無惨に飛び散る自分の姿

土を見て想像する事

全てを終えて虚無に還る自分の心

どんな物を見ても

どんな角度で見たとしても

自分のピリオドに繋がってしまう

自分のピリオドを探してしまう

他人に出会う外出は嫌いだ

殻に閉じこもり現実から目を反らす

人間が怖い

人と会う事が怖い

対人恐怖症だろうか

今自分は文字の世界に逃げ

今自分はゲームの世界に逃げ

今自分は現実から目を背けている

これでも生きていると言えるのか

これでも生きていて良いのか

こんな自分はまた世界に出ていけるのか

自分へ問い掛けは続く

標（しるべ）

歩き続ける自分がいる

ひたすら歩き休む間を置かず

ただ歩き続けている

背中に汗がにじみ

額に汗がにじみ

手足がしびれ

頭がしびれ

息がみだれ

全身に虚脱感を感じても

ひたすらひたすらに歩き続ける

歩く事が目的で

歩き続ける事が目的で

歩みを止めない事が目的で

歩いて歩いて歩いて歩いて

どこまでも

いつまでも

繋ぐ小さな手がなくなっても

繋ぐ等身大の手がなくなっても

風に身を削られ

火に身を焼かれ

水に身を流され

土に身を投じて

闇に心を閉ざし

光に心を輝かせ

歩き続けていく

それしか目的はない

目的地はないけれど

目的の達成の為に歩き続ける

そう

誰もが……

そうやって……

歳を重ねていくのだろう

きつと……

淡い心

伝えたい気持ちの中で

伝える不安に心が痛い

あなたの顔を見る度に

あなたの声を聞く度に

あなたの側にいたいと願う

想いを伝える勇気がなくて

想いが届く自信がなくて

あなたの後ろ姿ばかり追い掛ける

あなたの笑顔を見詰めてる

あなたに私は見えているの？

二人の距離がわからなくて

二人の距離が知りたくて

あなたと一緒に笑いたくて

あなたと一緒に泣きたくて

毎日あなたの事ばかり考える

未来の二人を考えて

二人の未来が幸せで

そんな空想の中が幸福で

そんな未来が愛しくて

今日こそあなたにこの気持ちを

— いいの —

あなたの事を信じていいの？

あなたと歩いていていいの？

あなたの傍にいてもいいの？

あなたの事を好きでいいの？

あなたを見ていてもいいの？

あなたと歳を重ねていいの？

あなたは私で本当にいいの？

あなたで私は本当にいいの？

いいの？

いいの

あなたでいいの？

あなたがいいの

私はあなたがいいの

あなたは私でいいの？

まだ人生は長いけど

過ちも失敗もあるだろうけど

あなたの傍で笑ってたいの

だからこれからもよろしくね

どんなあなたでも

私はあなたが大好きだから

あなたの傍にいさせてね

ね、いいでしょう？

五里霧中

《be at a loss》

人生は果てない蜃気楼

《be at a loss》

人生は出口のない迷路

《be at a loss》

不定形な愛を求め

《be at a loss》

毎日さ迷う霧の中

《be at a loss》

ループのような毎日

《be at a loss》

決してメビウスの輪に成りはしない

《be at a loss》

迷いさ迷い行き着く先は

《be at a loss》

結局いつも霧の中

《be at a loss》

果てなく長い

人生は《be at a loss》

自反愛

私は私が大嫌い

私は私を見たくない

どうして私は私なの？

取り柄も何もない

何が出来る訳でもない

好きになる努力もした

好きになろうとも頑張った

でも、やっぱり無駄だった

私は結局私が嫌い

何も背負って生きられない

毎日毎日が苦しくて

人に会うのが不安で恐怖で

見えない明日に脅えてる

過ぎてく昨日にしがみつく

明日になるのが不安で

明日になるのが嫌で

毎日恐怖と不安と苦痛の連続で

他人が怖い

だから私は私が嫌い

そんな私が大嫌い

早く楽になりたい

そんな糧にもならない

不条理な欲求

壊れてしまうその前に

慌ただしい暮らしの中で

話す機会も少ないけれど

今でも君を愛してる

そんな気持ちは届くだろうか？

君は僕の気持ちに気付いているか？

家事や育児に追われる中で

日々は慌ただしく過ぎてくけれど

私はあなたを愛してる

あなたは私を見ているの？

私の気持ちはあなたに届いているの？

無言の心は伝わらない

無言の気持ちは気が付かない

どれだけ二人が想っていても

伝わらなければ意味がない

修復不能になる前に

復元出来なくなる前に

言葉でハッキリ伝えよう！

『あいしてる』

強い想い

永遠に感じる逢えない時間

バイバイのキスじゃ帰れない

一時の孤独を無限に思い

貴方に逢いたい想いが募る

貴方の胸に幸せ感じ

貴方の腕に安らぎ感じ

ベッドで溶けた身体の中を

静かな微睡みが包み込む

バイバイのキスは悲しすぎて

貴方の唇が嫌いになる

好きだよの言葉が雲より軽く

貴方の本心が知りたくなる

好きな貴方は私の事が好きですか？

今日も貴方の腕に包まれる

夢で幸せ感じるの

だからバイバイのキスは抱きしめて

離れられないくらいに

反発心

勉強なんてわからねえ

頭が悪いわけじゃねえ

全ては大人が悪いんだ

全ては規則が悪いんだ

喧嘩するのに意味はねえ

負けたくねえから勝つしかねえ

売られた喧嘩を買うだけだ

いちいち喧嘩を売りはしねえ

タバコが吸いたいわけじゃねえ

酒が飲みたいわけじゃねえ

大人の嫌がる事がしたいだけ

大人の困った顔が見たいだけ

子供にや子供の世界がある

大人にやわからん世界がある

小さな枠に閉じ込めんな

反発したくなるからよ

不良とレッテル貼られても

はみ出し者と言われても

何か迷惑かけたのか

俺らの気持ちの何がわかるんだ

体面しか考えないデメエらによ！

不在愛

父親と母親であるというだけで

夫と妻であるというだけで

それ以上の関係性の成り立たない状態

夫が愛を求めても

妻は家事と育児で知らんぷり

妻が家事と育児に疲れても

夫は愛を強要す

夫の愛は形だけ

質なき愛は不必要

子供は気楽に我が道暮らし

親の事情も知る事なし

夫は子供を毛嫌いし

妻は子供を可愛がる

肩書きだけで生活し

真の愛など何処へやら…

広がる亀裂は心の隙間

埋まる事なき心の隙間

埋める事なき心の隙間

仮面夫婦はいつまで続く…

バランス

歩む先には闇ばかり

進めど進めど闇ばかり

光を探して

光を求めて

さ迷い歩く

歩む先には光が続く

歩めど歩めど光が続く

闇を探して

闇を求めて

さ迷い歩く

強い光に疲弊して

漆黒の闇に恐怖して

光と闇を行ったり来たり

強い光で希望に満ちて

強い光で疲れ果て

光を避けて

闇に逃げ込む

暗い闇で心を癒し

暗い闇に不安を感じ

闇を避けて

光に逃げ込む

人は光だけでは生きていけない

人は闇だけでは生きていけない

両方不要で

両方必要

つまりは… … バランス

崩心

制御不能な自殺願望

理性が躊躇する中、本能は永遠の虚無を求む

『死にたい』というより、『生きたくない』といった方が正解

自分という小さな殻から離れ、もっと自由な精神世界への願望が止まらない

生きていても苦しいだけ

死ぬのも苦しいだろうが同じ『苦しい』なら、先のない苦しみの方が
良い

生まれた事を呪う自分がいる

生まれた事に落胆する自分がいる

生まれた為に、死を望む自分がいる

誰も死など望んでいないだろう

しかし…もう…

平へたいら》

人は個性を持つて人と成す

人から個性を奪うという事は個人を奪うという事だ

幾万数多の人間がいて

幾万数多の個性があつて

幾万数多の性格があつて

幾万数多の特技があつて

幾万数多の特性があつて

幾万数多の喜びがあつて

幾万数多の怒りがあつて

幾万数多の哀しみがあつて

幾万数多の楽しみがあつて

幾万数多の職業があつて

幾万数多の人種が生きているんだ

他人に自分を否定することなんて出来ない

他人に個人を否定することなんて出来ない

他人に性格を否定することなんて出来ない

他人が他人を否定することなんて出来ない筈なんだ

幼い子にも自我はある

学生だつて個性がある

大人にだつて色々いる

限らない可能性を秘めた未来へ歩む中で

その可能性を搾取するような事は出来はしない

大人だろうが

教師だろうが
上司だろうが
両親だろうが
肉親だろうが
そんな権利は持ち合わせていない筈だ

この世に生を受けて
この世で歳を重ねて
嫌な事や悲しい事
楽しい事や嬉しい事
苦しい事や辛い事
そんなこんなを繰り返して
個人は個性を構築していく

個人を否定するという事は
個性を否定するという事は
性格を否定するという事は
特性を否定するという事は
ただただ人間を否定するという事だ
成長を否定するという事だ
生を否定するという事だ

そんな事があつてはならない
そう切に願う

簡単な言葉に
『平等』とか『平和』とかがある
そんな平凡な言葉じゃ言い表せないくらい

人間は複雑な生き物だと……思う……

切ない想い

あなたの事がこんなにも好きなのに
あなたの事をこんなにも好きなのに
あなたの事をこんなにも想っているのに
あなたの事でこんなにも頭がいっぱいなのに
あなたの事を
あなたの事で
あなたの事が

どうしてこんなにも苦しまなきゃいけないんだろう

好きな気持ちを打ち明けられたら
好きだと伝えられたら
好きな心をあなたに届けられたら
こんなにも苦しくはないだろう
こんなにも切しくはないだろう
こんなにも悲しくはないだろう
こんなにも胸が痛くはないのだろう

でもあなたは友達で
でもあなたは異性の親友で
でもあなたはいつも傍にいて欲しくて
でもあなたから離れたくなくて

あなたに本当の気持ちなんて言えない

私……バカ……だよ……

不条理

学歴に左右される世界の中で
障がいにも左右される世界の中で
人種に左右される世界の中で
病気に左右される世界の中で
性別に左右される世界の中で
年齢に左右される世界の中で
数多の物事に左右される世界の中で

自分らしく生きていくのは難しい

学歴社会は終わっても

結局 優等生と落ちこぼれは存在し

障がい差別が無くなっても

その就職先は限られたままだ

人種差別を反対しても

その人間自体を肯定したりしない

病気で解雇はしなくなっても

それ以外の解雇理由を探そうとする

男女平等をいくら唱えても

その溝は埋まる事もなく存在する

どれだけ能力があっても
若い事がネックになる傾向にある

どれだけ差別や偏見を無くそうとしても
差別と偏見を持つ人は常に存在し
外見的に表面から消え失せただけで
氷山の海面下のように存在する

そんな世界にどんな未来を描けばいいんだ
そんな世界にどんな理想を掲げればいいんだ
そんな世界の矛盾をどうして飲み込めばいいんだ

そんな世界で自分らしく生きるのは
とても難しい

破片の詩

その時その時に

感じた心に素直に従い

ただ無心に言葉を並べていく

心を飾らず

気持ちを飾らず

格好をつけて見せようとせず

素直な言葉で

素直な気持ちで

素直な詩を紡いでいく

感じた心に

飾りを付けて

着飾り

装飾を施した言葉など

所詮偽りの戯れ事にすぎない

景色を見たり

我が身に起こった現実

動いた心をそのままに

動いた気持ちをそのままに

白紙のキャンバスに心を詩う

そうして出来たのが自分の詩

誰にも真似の出来ない個人の詩

個性と自身が作り出した破片の詩

終焉

目に見えるものだけが真実とは限らない
耳に届く音だけが真実とは限らない
鼻に感じる匂いだけが真実とは限らない
口で味わうものだけが真実とは限らない
肌に当たる感覚だけが真実とは限らない

心を蝕み 身体を蝕み

悠久の刻の中で人類は探究心を忘れない
その先が光明の未来か絶望の深淵かを定めずに

日々の命の欠落は

微かな音さえたてず

静寂の空にその楔を突き立てる

無垢なる浄化された魂は

穢れた精神と共に汚染され

その身をカラフルに染めていく

己が見えるその先に

己に聞こえるその先に

己に匂うその先に

己が味わうその先に

己が感じるその先に

理の常があるとは限らないが

それを探究するのもまた人類に課せられた償いなのか

人は 病み 蝕み 患い 苦しみ 崩壊してゆく

その道程に足跡を残して

魂と命の先端に待つのは
断罪か それとも……

1から順に（前書き）

うん。深くは考えていない（；；
ん（

1から順に

1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 , 7

1から順に数えていく

お風呂の中で 湯舟に浸かって数えるように

1から順に数えていく

そんなスムーズに 数える事はできないけれど……

1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 , 7

1から順に数えていく

初めて習った 算数のように

1から順に数えていく

1年毎に 一つずつ

1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 , 7

1から順に数えていく

毎年毎年 数えていく

数を重ねて数える度に 私の身体は成長し

数を重ねて数える度に 僕の身体は朽ちていく

1 から順に数えていくと

私は今年で17歳

僕は今年で62歳

それでも数を数えていく

数えなければいけない身体

1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 , 7

1 から順に数えていく

1 から順に数えていって

最後の数は…… まだ わからない

閃き（前書き）

頭に言葉が浮かぶ瞬間

閃き

目の前の無色透明な世界の中を

言葉と言葉の繋がり

僕を使えと呼んでいる

私を使えと手に止まる

小さな小さな言葉の欠片が

短い間に少しずつ

そう 本当に少しずつ

目には見えないけれども

アピールしてる

言葉の妖精達は

その言葉の楽園が

表現される場で知っているかのように

僕を使えと呼び続け

私を使えと手をひいて

私に唄を紡がせる

心に響くきれいな唄も

心を癒す優しい唄も

心の弾ける激しい唄も

みんな言葉の妖精が

僕を使えと 私を使えと

心に入り込んだから

生まれたんだ

言葉の妖精は

物書きと唄歌いのそばに

きつという そう それこそいつまでも……

閃き（後書き）

後は音色を付けるだけ……

まだずっと先だよ（前書き）

結果は求めるものじゃない

まだずっと先だよ

生きてる意味がわからなくなったら辞書をひく

生きてる意味は載ってない

生きてる意味がわからなくなったら人に聞く

それぞれみんな悩んでる

生きてる意味がわからなくなったらどうするの

辞書をひいても載ってない

人に聞いてもわからない

そしたらどうして調べるの

生きてる意味がわからなくなったらどうしよう

静かに休んで落ち着くのさ

誰に聞いてもわからないなら

だったら自分に聞けばいい

生きてる意味はずっと向こう側に

きつと転がっているからさ

いつか いつの日か 見つかるさ……

まだずっと先だよ（後書き）

後からついて来るものさ

極端（前書き）

形を考えて

極端

むずかしい ことばを

むずかしい かんじや

むずかしい ひょうげんで

どれだけ かんけつ に

どれだけ かつこう よく

かいたって

よむひとに つたわらないと いみがない

よめない かんじが できたら かんわじてん

しらない ひょうげんが できたら こくごじてん

しらない えいごで かかれていたら えいわじてんで いみしらべ

けつきよく とちゅうとちゅうで むださぎよう

そんなことなら はじめから よみたくないと まるなげで

よまない ひともおおいでしょう

ひとの このみに よるけれど

わかりやすい かんじで

しっている ことばで

かいて くれたほうが よみやすい

けれども これは やりすぎだ!!

極端（後書き）

やりすぎた（・・・）

精神破綻（前書き）

壊れていた時の私を開放！！

詩の癖に、千文字オーバー。

精神破綻

睡眠薬でトリップ中

頭朦朧 立位困難

眠ればいいけど書きたくなくて

携帯片手にポチポチと

真っ暗で携帯弄って

目が痛い

思考能力なくなつて

書きたい事がわからない

無駄に言葉を羅列して

イミフな文章並べてる

作家デビューもしたいけど

自分の力じゃ到底無理

それでも諦めきれなくて

携帯ネットで調べて調べて

新人賞が近道と

言われて原稿用紙を引っ張り出すと

書きたい事をど忘れし

フラフラ状態継続し

言いたい事が意味不明

身近な出来事書いてみて

趣味か道楽続けてる

詩集も出したい

文庫も出したい

電子書籍も構わない

自分の書いた物語

自分の書いた詩が

店頭ならぶ夢をみて

妄想全開

現実逃避

本を読むのが苦手になって

活字を見るのが苦手になって

それでも夢は棄てられず

自分で書いた力作に

酔った自分が情けない

睡眠薬で朦朧で

ゲーム片手に情報収集

長い間に生きてきて

自分の能力思い知る

馬鹿だ馬鹿だと思っていたら

馬鹿は馬鹿でも大馬鹿で

精神崩壊

自我崩壊

周りに見える有名著者に嫉妬して

自分の能力棚上げで

映画になったら嬉しいな

文庫になったら嬉しいな

電子書籍もOKで

新たなSTORYを考える

気持ちばかりが空回り

少し書いては挫折して

少し書いては投げ出して

自分で収集つかなくなって

毎日毎日葛藤中

恋愛小説苦手で書けず

異世界物はプロット面倒

コメディー書いたらシリアス化

詩を書いても心が壊れ

歴史や童話は書けません

絵本作家に憧れて

子供のための話を書いても難しく

ブラックユーモア全開で

私は何が得意なの

ピンからキリまで右往左往で

書きたい事が定まらず

毎日悩んで悩んで

切羽詰まって

もうどうする事も出来ません

リレー小説作者がこない

自分でちよくちよく書くのはなんだか違う

就職活動イマイチで

毎日墮落の生活で

私はホントに生きてるの

大器晩成なんて言葉があっても

努力もなしにそれはない

生きてる価値が見つからず

行きてる意味も見つからず

いつも毎日暗中模索

子供に対して説教たれて

ホントは自分がイケテナイ

ゲームとゲームとゲームとゲームで

一日過ごし

ホントの愚者は自分だろう

睡眠薬の効果が効いて

頭がぼーとしたままで

自分は生きてる価値があるかと悩む

私を好んでお気に入り

登録してくれてる人には申し訳ないけれど

結局、自分は愚者で愚民で出来損ない

死にたい気持ちもあるけれど

死ぬのが恐い気持ちもある

葛藤葛藤毎日葛藤

それはみんなも同じかな

不思議と私は駄目人間

信用したら裏切られ

それでも人を信用し

自分の心を痛め付け

崩壊したら先がない

死んで詫びても変わらない

いつから私はこうなった

もう……しんどい……

イッソの如く蒸発したい

神隠しにでもあってみたい

暗闇の光の届かぬ密室に

閉じ込め私を忘れてほしい

馬鹿でも阿呆でもいいから

精神も肉体も壊死して腐って

崩れてしまえ

精神破綻（後書き）

睡眠薬を飲んで、意識朦朧としていた時に書いたみたいで、自分で
見ても新鮮。

やっぱり、壊れてますね。私……。

微力（前書き）

自分の価値

微力

くだらねえ人生だと思わねえか

毎日毎日くだらねえ勉強ばっかさせられて

くだらねえ人生だと思わねえか

毎日毎日満員電車で揺られて通勤

くだらねえ人生だと思わねえか

毎日毎日やけに多い宿題に追われて

くだらねえ人生だと思わねえか

上司に媚びへつらって頭下げて

毎日毎日 勉強勉強

毎日毎日 仕事仕事

毎日毎日 家事に追われて

毎日毎日 炊事洗濯掃除買物

くだらねえ人生が

くだらねえ毎日が

ただただ繰り返されて

それでも毎日生きていなくちゃいけないくて

でもさ……

きつと自分も

世界にとつたら

大事なピースの一つなんだよ

ジグソーパズルは

一つ欠けたら完成しない

どんなちっぽけなピースでも必要なんだ

そうさ

自分は不必要なんかじゃない

きつと小さくても

とてもちいさなパズルピースなんだ

微力（後書き）

本当の意味での価値観を見付け必要は、別にないだろっけど。

喜びの悪夢

フィクションではなくノンフィクション
現実であるがただの夢

毎日毎日見続ける
共通アイテムはいつも包丁

脳天をかちわり
頭を前頭部から貫き
心臓を突き刺し
腹を裂き
手足を切り離し

毎日毎晩演出は違うけど
毎日毎晩私は死ぬ

自分の握り締める包丁で
自身の身体を傷付け私は死ぬ

これは願望か
それとも恐れか
どちらにしても現実
私は死を求め
人の自分を壊してしまいたい

夢の中で
大量の血を流し脳みそや臓物を撒き散らし
高らかに笑い続ける私

これは既に狂気の沙汰か……

喜びの悪夢（後書き）

ここから毎日書き留めた、ブラック・ダークの詩を含め、へんてこ詩も投稿し続けていきます。

その数大体三十ちよい。

見えない唄を

静かで穏やかな時間の中に

静かな虫の音が満ち溢れ

静かに静かに言葉が浮き沈み

見えない言葉を空から掴み

見えない言葉を空へと放つ

見えない言葉は虫の音に

溶けて夜空に浮かんで消える

シャボンの玉が暗いお空に浮かんでも

シャボンの玉は見えにくい

それでもシャボンはそこにあり

シャボンと一緒に言葉が浮かぶ

街の明かりが悲しくて

暗いお空が寂しくて

それでもやっぱりお腹はすいて

今日もお家に帰るのさ

静かで穏やかな時間の中に

静かに虫の音が満ち溢れ

静かに静かに言葉が浮き沈み

そんな心がキレイな心

それは誰にもわからない

だからみんなは唄うのさ

心と気持ちの……

小福（しょうふく）

もうこれ以上は無理だよと

限界点まで毎日飯を食ったとしても

家には全く還元されず

財布の中が氷河期で

文明開化はまだ遠い

それでも桜並木は満開で

家族の心は行楽日和

毎日毎日喧嘩をしたり

毎日毎日笑っていたり

そんな世界が千年未来

そんな訳はないけれど

春の陽射しの心の中は

吹雪の山でもありはして

激しくコロコロ気候が変わる

それでも四季があるからと

日々の移り変わりが

良さだとわかる気がして

行楽日和の桜並木は

満開満員笑顔が溢れ

幸せいっぱい夢いっぱい

現実逃避はするけれど

やっぱり財布は氷河期で

今日も変わらず飯を食う

多種多色

人間なんてカラフルでいい

人間なんてカラフルなんだ

人間だからカラフルなのか？

人間だからカラフルでいい

もうどうでもいい

カラフル カラフル うっせえ！！

そう思った人は正しい

カラフル カラフル うっせえんだ

それでも更に上乗せで

カラフル カラフル 言ってやる

なんでって？ どうしてだって？

当たり前だろ？

人間なんだから

だから人間はカラフルなんだ

だから人間がカラフルなんだ

いろいろあつて

いろいろいるから

人間てのはカラフルだってこと

詩の詩人

詩人になんて誰でもなれる

詩人になりたい人がいるならば

詩人になったと言えばいい

詩人になったと言ったら誰かが

詩人らしいことをしてみろと

詩人は詩を紡いでみろと

詩人のあなたに言うでしょう

だからといって気にしない

唄うことなどありません

なぜなら詩人は詩人としての

詩人らしさは何でしょう

免許や資格じゃないんだし

ただの肩書き自己酔狂

詩人を名乗って唄わなくても

詩人は誰かを傷つけない

詩人にできる一つの技は

心と自然に溶けること

素直な自分に出会うこと

そうして詩を唄うこと

誰かのための唄ではなくて

唄いたいから唄うこと

そんな詩人が素晴らしい

詩人が詩人になる時は

詩人が詩人と思うとき

詩人を詩人と言われるとき

言ってしまえば詩人は自由

それが詩人の価値だろう

死者との差

家から一歩外に出て

陽射しの中で詩を詠む

風に揺らめく木々の葉や

ゆつたり過ぎてく自転車達

狭い道を往来する自動車

元気に飛び跳ねる子供達

草花に寄り添う蝶々

ポイ捨てされた古びた煙草

忙しそうなサラリーマン

陽射しに照らされた家の明と暗

井戸端会議のおばちゃん達

陽に当たって暑いぐらいの首筋

足元で踏み付けられてもめげない雑草

遠くに聞こえる布団叩きの音

昼間はただ立ってるだけの街灯

真剣な面持ちでジョギング中の男女

所狭しと停められた自転車

アスファルトの上を急ぐ蟻

遠くで聞こえる笑い声

日陰に入ると少し涼しい

秋祭りを知らせるのぼり

大きな袋を持った主婦の帰り道

晴天の空 それでも雲は白い

日傘をさしてウォーキングする女性

駐車禁止のカラーコーン

遠くに見える山の偉大さ

いろんなものが見えて

いろんな匂いがする

いろんな音が聞こえて

いろいろ肌に感じる

うん これが活きてるってことか……

いき場（前書き）

壊れはじめです。

いき場

眩しい太陽の下を

目を細めて歩く

人が恐くて

人と視線を合わせずに

それでも陽射しの中に身を委ね

とぼとぼトボトボ歩いてく

家にいたって邪魔者扱い

家族は私があるとストレス溜まる

外に出てきてビクビク歩く

自分のストレス解消よりも

家族のストレス解消優先し

気持ちと心が壊れてく

自分がいなけりゃみんなが幸せ

そんな勝手な思考して

自滅問題 自己崩壊

それでも未来に光を感じ

生きてる自分を大絶賛

同時に自分を悲観で埋めて

どうしたものかとトボトボ歩く

少し歩いて立ち止まり

少し進んで立ち止まり

剃らずに伸びた無精髭

軽く触って気になって

自分は誰だと自問自答

それでも世界は明るくて

それでも世界はうるさくて

それでも世界に人々溢れ

他人が恐い私は^{わたくし}

眩しい太陽の下を

目を細めて歩く

学ぶ場所

風の無い

雲の動かぬ空を見て

「空は青いなあ」と当たり前をを呟く

動かぬ雲は形を変えず

同じ形でそこにあり

「ゆつくりでいいんじゃない？」と言ってくる

ゆつくりのんびりできたらいいなあ

なんて想いは単なる想いで

気持ちはどんどん焦りに変わり

青い空が憎らしい

形を変えぬ白い雲は

青い空で優雅に暮らし

私の心を見透かして

「馬鹿だ馬鹿だ」嘲笑す

そんな勝手な思い込み

そんな勝手な想像で

自分を酔わせて現実逃避

それじゃ駄目だと思っても

心と体は分裂をし

水と油のようになる

「そうかそうか」と納得し

まずはゆったりのんびりと

心を落ち着け《現実》を見よう！

ベランダ越しに

家の中には居場所がなくて

家の外にも居場所がなくて

ベランダ越しに部屋を見る

明るく光る家の中

家族がみんな笑ってる

楽しそうに笑ってる

だから私はベランダで

用もないのにそのままで

星空眺めて虫の音聞いて

幸福家族を觀賞する

そこは映画のスクリーン

そこはテレビのブラウン管

モニター越しの家族はとても幸せそうで

私は中に入れない

家の中では疎外感

家の外では迫害感

居場所も支えもないままで

何を頼りに生きていく

男は家庭じゃストレスになり

男は社会でストレス溜め込んで

会社でいびられ

家庭で蹴られ

ベランダ暮らしが幸せだろうか

ここなら家庭は映像で

仮想世界と同等で

音がないのがちょっとさみしいかな

無駄資源

僕が家族と一緒にいても

家族は僕と一緒にいない

僕が家族に求めても

家族は僕に答えない

僕が家族を見ていても

家族は僕を見ていない

僕と家族は一心同体

家族と僕はあかの他人

僕の願う家族と共の幸せは

家族にとれば有難迷惑不幸せ

僕が笑ってテレビを見れば

家族は笑って別部屋へ

主人の威厳で何だっけ

主人は家の何だっけ

そうそうそうだ　そうだった

主人は家庭のお荷物で

主人は家庭のストレスで

主人は家庭のなまゴミで

主人は家庭の嫌われ者だ

亭主仕事で留守が良い

Tomato (前書き)

この辺りから、シユールじゃなくて、ダークに近づきます。

ご了承ください。

T o m a t o

腰の高さのベランダ柵に

ひょいと手を掛け体を上げりや

スウーと体は落ちてって

ベチャツとトマトが潰れます

潰れたトマトは異臭を放ち

家庭で何があつたかと

近隣親族その他から

根掘り葉掘り聞かれても

潰れたトマトは知りません

潰れたトマトが全てを棄てて

グチャツと潰れたその日から

トマトの家族は暗中模索で四面楚歌

トマトはスウーと落ちていく

全てを棄てて落ちていく

現実逃避で落ちていく

そんなトマトが嫌いなら

そんなトマトは育てない

腰の高さのベランダ柵を

ひょいと手を掛け体を上げりゃ

そんな事になる前に

トマトも含めて相談しましょ

それでも駄目なら

トマトはグチャツと潰れます

精神感染

鬱の家族はみんな鬱

鬱病感染してしまい

気が付きやみんな鬱になる

鬱は感染致しません

そんな事を言うヤツいるが

鬱は感染するんです

鬱の看病やっていると

鬱の患者がウザくなる

そのまま患者の相手をする

自分もだんだん鬱になる

鬱が感染^{うつ}って鬱になる

気が付きや鬱が鬱の看病し

堂々巡りで手詰まりで

鬱は鬱を蹴り倒す

鬱は自分が不要だと

自殺を考案 鬱悪化

そのまま鬱は感染し

家族みんなが鬱状態

鬱が鬱を治しても

結局鬱が感染し

気が付きや鬱に逆戻り

鬱になったら家庭におらず

入院するのを薦めます

じゃないと鬱が家族に感染し

鬱で家庭が潰れます

そんな事はないですか？

低家賃（前書き）

現実逃避のはじまりです。

低家賃

六畳一間のワンルーム

風呂もトイレもあります

風呂とトイレは共同で

一ヶ所あつて他は無し

それでも寝泊まりするには十分で

八千円の家賃が大きな魅力

交通機関は何もなく

電車もバスも通らない

車が通る道さえも

前にはなくて自転車オンリー

それでもやっぱり八千円が

魅力で離れる事できず

ずっと六畳一間のワンルーム

押入れなくて万年床で

掃除もせずに埃が溜まり

きつと中には菌だらけ

布団の裏は黒くなり

下の畳も黒色で

きつとカビだとわかっていても

掃除はやっぱりしないのだ

友達たちが

ラブホ代わりに使わせると

せがんでくるので貸してはやるが

文句は一切ききやあせん

そんな六畳一間のワンルーム

今日も埃とカビに囲まれて

それでも夢では幸せなんだ

好きでもないのに

煙草を止めた時点で既に

禁煙達成 もう吸わない

それで禁煙できるらしい

最後の煙草を揉み消すと

「バイバイ煙草」と一言言って

二度と吸わぬと心に誓う

煙草を憎んでしばらく待てば

禁断症状突破して

気が付きや完全禁煙達成

一週間だけ我慢して

悪魔が呼んでも我慢して

そつすりや悪魔とおさらばし

ニコチン中毒離脱する

ニコ中は麻薬中毒らしいから

一週間だけ辛いのだ

ただしそこから問題で

たまには一本いいかななんて

思ってしまうと思うツボ

二度とは吸わないもう吸わない

一度決めたら突き通す

ノースモーカーの仲間入り

禁煙しようと決めた日から

禁煙達成 期間は未定

目標期間があると

到達したらまた再開

堂々巡りが止まらない

いつまでたっても悪循環

禁煙決めたら禁煙達成

そこから二度と吸いません！

煙草とタスポは捨てましょう

水のカビ

一家に伝わる難病は

世代を超えて受け継がれ

いつまでたっても治らない

病院通いもろくにせず

薬もあまり塗らないし

ほつときゃ酷くなるばかり

それでもあまり気にせずに

ほつときゃまたまた次代に感染

脈々確實受け継がれ

いつまでたっても治らない

最悪酷くなつてから

市販の薬で治そうと

どれだけやっても治らない

ジジイもババアもこの病氣

父親 母親 この病気

そして私もこの病気

ついでに妻もこの病気

子供に感染ったこの病気

その名もご存知水虫で

虫ではなくて白癬菌

カビの一種でございます

水虫なったら病院行こう

じゃないと世代伝来の

難病状態 維持継続

唄

私の詩には節がある

一定リズムの節がある

別に節に合わせて書かなくちゃ

いけないけど バランス悪い

けれども読む人達には強要しない

耳で読む人 目で読む人

声で読む人 心で読む人

それぞれあって 当たり前

カタコト言葉の文章だって

唄だと思えばキレイなもんだ

一定リズムで節がある

不定のリズムで崩れるけれど

それでも好きに読めばいい

詩なんて結局は

自分の表現 自己酔狂

自然観賞 情景間食

好きなように書けばいい

好きなように読めばいい

だってそれが唄だもの

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7896q/>

卵から棺桶まで（詩集）【2】

2011年10月18日10時58分発行